



## 新たな病害虫情報～ 野菜等のカメムシ2種とメイガ1種 ～

最近、母島で相次いで記録（一部は再記録）された害虫3種についてお知らせします。

### 1. アシビロヘリカメムシ：2ページ目参照

昨年9月頃から、母島の露地圃場のトウガンで比較的大型の黒っぽいカメムシの発生が確認されており、本年2月に成虫1個体が採集され、本種と同定されました。本種は1950年の初記録以降、発生確認はありませんでした。成虫は体長20mm前後、黒褐色で、腹側に多数の橙色斑があります。前胸の背面中央前方に三日月型をした橙色の帯があり、側部は鋭く尖っています。後脚は長く大きく葉状に広がります。幼虫は1～5齢まであり、4齢まではオレンジ色です。卵は黄褐色で加害植物の茎部やツルに直線上に20個前後の卵塊として産みます。成虫、幼虫ともキュウリ、ニガウリなどのウリ科植物、カンキツ類、グアバ、パッションフルーツなどの果樹類も加害します。加害された果実は内部がスポンジ状になり奇形果となります。

### 2. ミナミアオカメムシ：2ページ目参照

本年2月に母島の施設圃場内のカラシナなどで発生が確認されました。本種は以前から記録されていましたが、2,000年代頃からほとんど見られなくなっていました。成虫

は体長15mm前後、基本的に体色は黄緑色ですが、体色には様々な変異があります。幼虫は腹部背面に白いまだら模様があります。触角第3～5節の前半分が褐色です。卵は白色・樽型で、数十個並べた卵塊として産みます。広食性で大豆、野菜類、果樹類など様々な植物を吸汁加害します。1、2とも防除対策は（1）成虫や卵は除去する。（2）防虫網を設置して成虫の侵入を防ぐ。（3）各加害作物の「カメムシ類」で登録のある薬剤を散布する、です。

### 3. ケブカノメイガ：2ページ目参照

本年2月に母島の施設圃場内のカラシナで発生が確認されました。成虫は黄褐色で翅広げた幅は約25mm、雄の前翅前縁に黒色の毛束があります。終齢幼虫は体長約15mm、頭は淡褐色で体は暗緑色、各体節ごとの黒点3対が目立ちます。卵は数十個の淡黄色のうろこ状の卵塊として葉裏などに産みます。幼虫はアブラナ科やウリ科、キク科野菜を加害します。防除対策は、農薬登録はないため、防虫網により成虫の侵入を防ぐようにし、幼虫や卵は捕殺します。なお、これらの3種は同時期に伊豆大島でも記録されており、台風により島外から侵入した可能性があります。

2014/3/24

### 1. アシビロヘリカメムシ



上左・上中：成虫、上右：幼虫、下左：卵（卵塊）、下右：吸汁によるキュウリの被害  
（画像は [http://www.jppn.ne.jp/tokyo/data/yosatu/toku/TOK\\_140310\\_ashibiroherikamemushi.pdf](http://www.jppn.ne.jp/tokyo/data/yosatu/toku/TOK_140310_ashibiroherikamemushi.pdf) より）

### 2. ミナミアオカメムシ



左：成虫、右：幼虫

### 3. ケブカノメイガ



左：成虫（♂）、中：幼虫、右：卵（卵塊）

（一部の画像は <http://www.jppn.ne.jp/tokyo/data/yosatu/toku/TOK-101108%20kebuka.pdf> より）

なお、アシビロヘリカメムシについては、東京都病害虫防除所より3月10日付で「病害虫発生予察 特殊報 第2号」を公表しています（以下参照）。  
[http://www.jppn.ne.jp/tokyo/data/yosatu/toku/TOK\\_140310\\_ashibiroherikamemushi.pdf](http://www.jppn.ne.jp/tokyo/data/yosatu/toku/TOK_140310_ashibiroherikamemushi.pdf)

今後も、今までに見たことがない害虫や病気を見かけた際は、農業センター（Tel. 2-2104）もしくは営農研修所（Tel. 3-2129）までご一報ください。 <大林>